

### 3-15 相模トラフ北端部の海底地形

#### Submarine Topography in the Northern Part of Sagami Trough

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

平成2年1月、地震予知計画に基づく当該海域の精密海底地形調査を測量船「拓洋」で実施した。調査は東西方向0.5～1海里の測線間隔で行い、測位は複合測位装置（ロランC、NNSS及びGPS）、測深はナローマルチビーム測深機（シービーム）によった。

この結果、本海域の微細な地形が明らかになり、相模トラフ、トラフを挟む急斜面、緩斜面、あるいは斜面を修飾する堆、海丘、海底谷、海底段丘面等の地形や、地形境界の特徴が明瞭となった。これらの地形境界は、主に直線状を示す地形（リエアメント）や屈曲する急崖で縁どられており、断層、褶曲等の構造線か、それらの構造運動に起因する地滑り等による海底崖としての様相を示している。

相模トラフは、房総半島側（陸側）と伊豆大島側（海側）の斜面に挟まれて分布している。トラフの軸は屈曲しながらおおむね北西-南東方向から東-西方向を示すが、東京海底谷末端部及び大島東方で大きく折れ曲がっている。トラフ底は全体的に平坦であるが、比高約10m程度の小起伏が見られ、チャンネルが発達している。特異なものとしては、大島北東方のトラフ底に、比高約400m、最浅水深1390mの小海丘があり、構造運動により、斜面上の山地が切りはなされて形成された可能性が高い。本海域内のトラフ底の水深はほぼ1400m～2700mであり、縦断面の傾斜は、およそ5/1000～20/1000である。

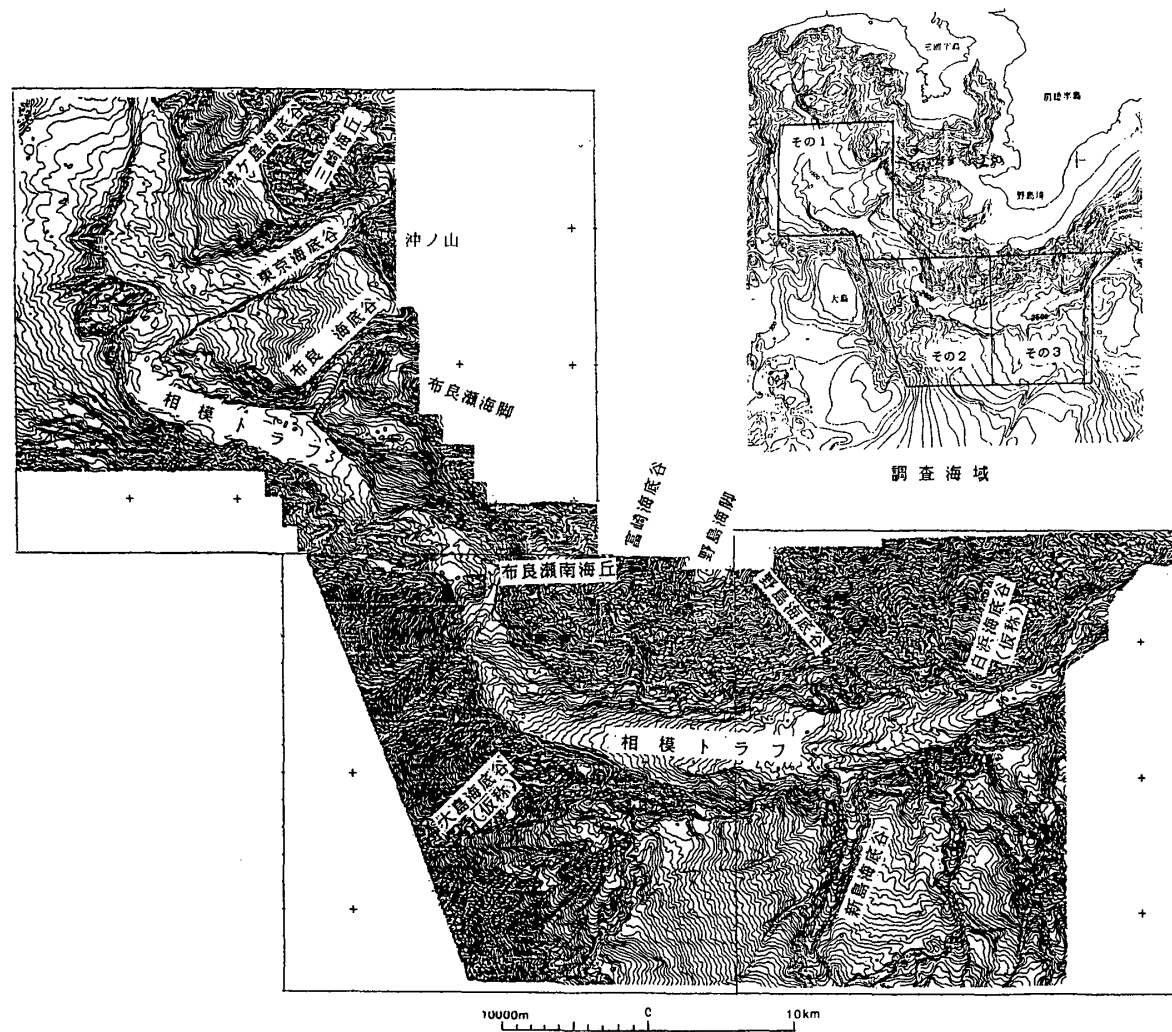
急斜面部（傾斜：200/1000～250/1000）は、谷や尾根が発達した複雑な地形を示し、特に、三崎海丘、沖ノ山（堆）（区域外）には顕著な断層崖が認められる。布良瀬南海丘、富崎海底谷、野島海底谷、白浜海底谷（仮称）、大島海底谷（仮称）等もこの斜面部に存在する。

一方、緩斜面部（傾斜：30/1000～40/1000）には、城ヶ島海底谷、東京海底谷、布良海底谷の末端部及び新島海底谷等がみられる。このうち東京、布良海底谷末端部では、谷壁の一部が断層崖となっている<sup>1)</sup>。大島側の緩斜面部では、屈曲する海底崖が急斜面部との境界になっており、また緩斜面をいくつかの部分に分割している。新島海底谷は海底崖に沿って形成されている。

音波探査（シングルチャンネル）記録<sup>2)</sup>によると、緩斜面を形成する層理の明瞭な堆積層は、北東ないし北方へ（トラフ底に向って）傾き、その上部層が崩壊して、緩斜面とトラフ底との境界は、比高約200～300mの海底崖（崖の傾斜は100/1000程度）となっている。

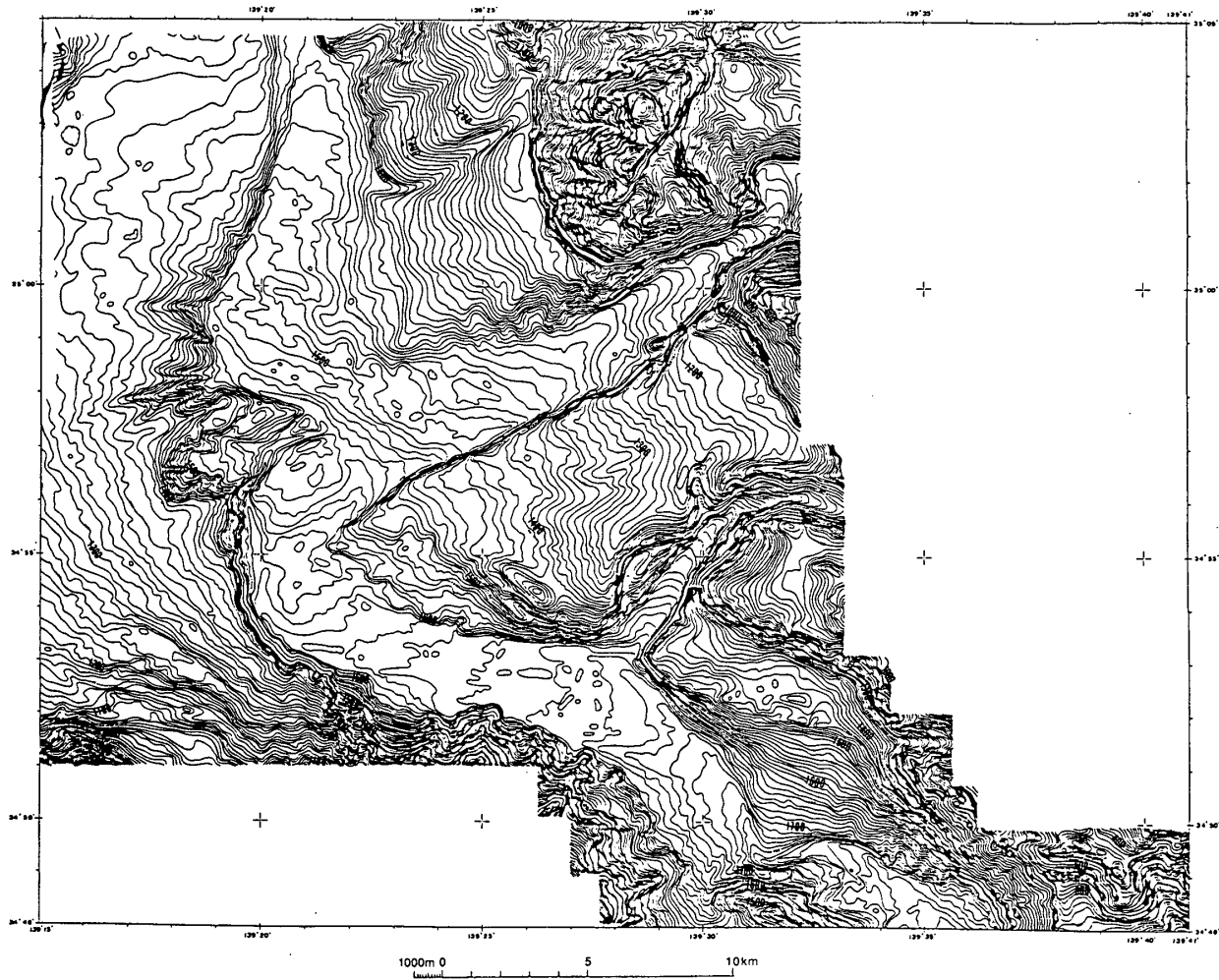
#### 参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：洲崎沖南部の海底地形・地質構造，連絡会報，30(1983)，119-121.
- 2) 海上保安庁水路部：相模トラフ中部の海底地形・地質構造，連絡会報，32(1984)，276-279



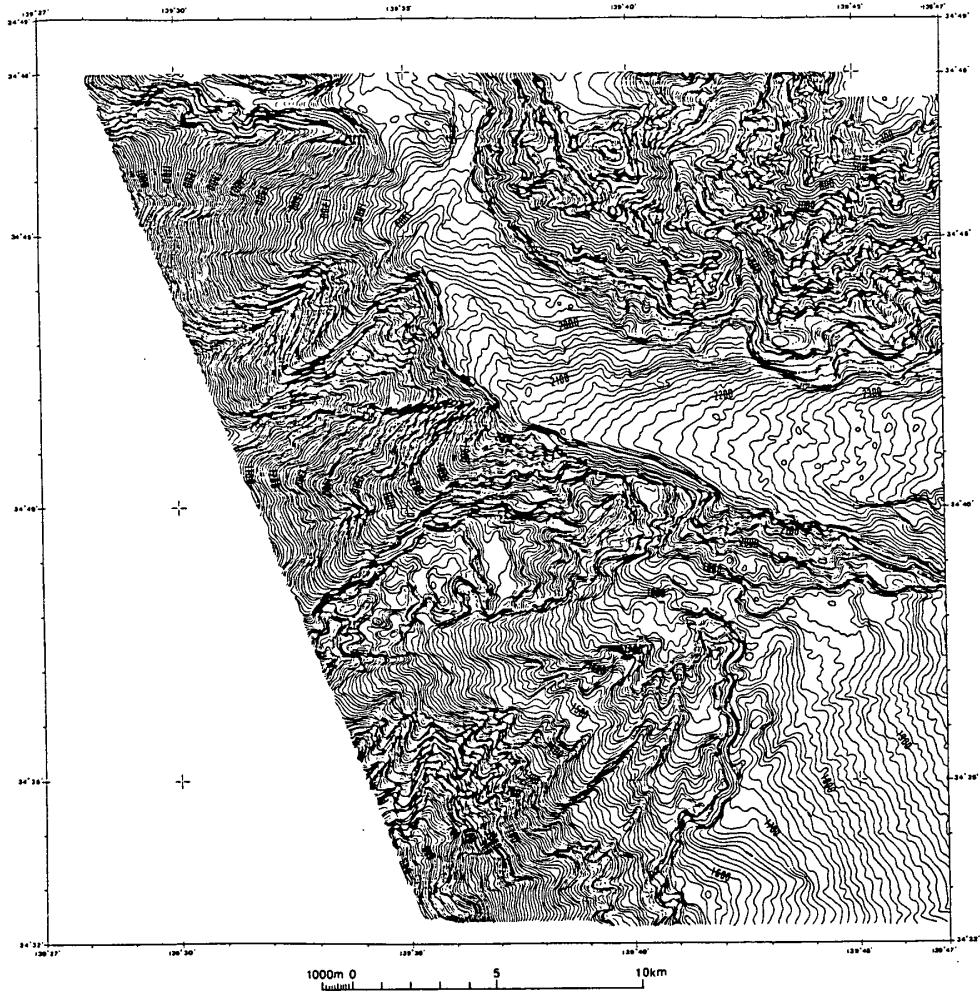
第1図 相模トラフ北端部海底地形図 等深線間隔：10m

Fig. 1 Bathymetric chart in the northern part of Sagami trough. Contour interval: 10 m.



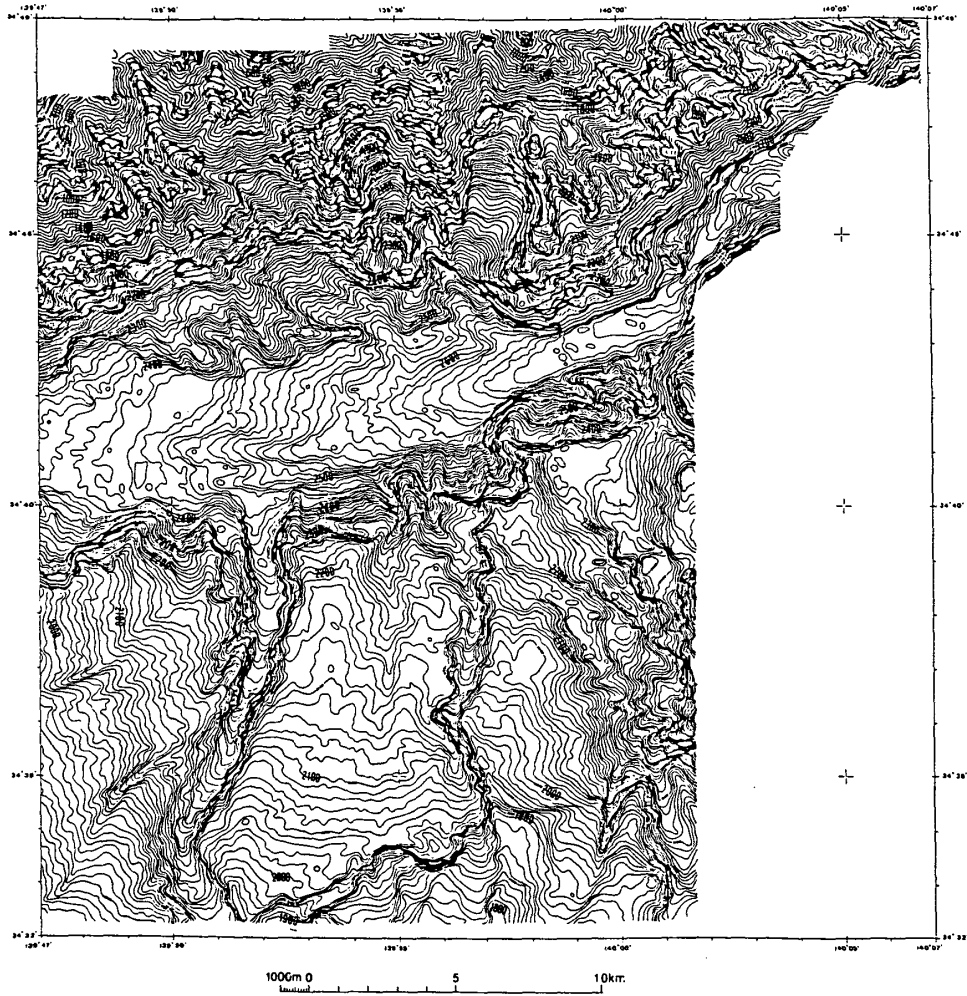
第2図 相模トラフ北端部海底地形図(その1) 等深線間隔: 10m

Fig. 2 Bathymetric chart in the northern part of Sagami trough (part 1). Contour interval: 10 m.



第3図 相模トラフ北端部海底地形図（その2） 等深線間隔：10m

Fig. 3 Bathymetric chart in the northern part of Sagami trough (part 2). Contour interval: 10 m.



第4図 相模トラフ北端部海底地形図(その3) 等深線間隔: 10m

Fig. 4 Bathymetric chart in the northern part of Sagami trough (part 3). Contour interval: 10 m.